

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	旧約聖書を学ぶ						
担当教員	宮田 玲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	モーセ五書を学ぶ						
授業の概要	モーセ五書とは、旧約聖書の最初におかれた五つの書のことで、旧約聖書のもっとも基本的な内容が記されている部分です。具体的には、「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」の五つの書を指します。この中にはわたしたちにもよく知られている物語が多く含まれており、また、新約聖書のエピソードの背景となるものもあります。授業では、モーセ五書を中心として、旧約聖書についての理解を深めていきます。特に、「創世記」と「出エジプト記」からいくつかの物語を取り上げて、これまでどのように読まれてきたかを紹介します。						
到達目標	旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について基本的な知識を獲得でき、書かれている内容や物語に対する理解を養うことができます。また、旧約聖書とのかかわりから新約聖書を眺める視座を得ることができます。						
授業計画	第1回 新約聖書と旧約聖書、聖書の舞台 第2回 モーセ五書の成り立ち 第3回 物語（1） アダムとイブの物語 第4回 物語（2） バベルの塔の物語 第5回 物語（3） アブラハムとサラの物語 第6回 物語（4） サラとハガルをめぐる 第7回 物語（5） 小テスト・イサク奉獻 第8回 物語（6） イサクとリベカ 第9回 物語（7） ヤコブとエサウ 第10回 物語（8） ヤコブの夢 第11回 物語（9） 出エジプト：モーセ 第12回 物語（10） 出エジプト：エジプトから荒野へ 第13回 物語（11） 十戒 第14回 物語（12） カナンへ：モーセの死 第15回 まとめ、質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回の授業の内容を復習してきてください。 授業後学習：授業時に配布するプリントに授業内容の要点をまとめておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 60%、平常点 40%（小テストを含みます）						
教科書	指定しません。なお、随時プリントを配布します。						
参考書	並木浩一・荒井章三（編）『旧約聖書を学ぶ人のために』 世界思想社 ISBN:978-4790715566 石川立・中村信博・越後屋朗（編）『聖書 語りの風景』 キリスト新聞社 ISBN:978-4873954762						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	教会音楽入門A						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教音楽の歴史を概観し、聖歌を歌うことの意味を知る。 歌うための体と息の使い方に気付く。						
授業の概要	キリスト教における音楽の役割を理解するため、西洋音楽の歴史を概観し、代表的な宗教曲を鑑賞する。教会暦について確認するとともに、「聖歌集」や「讃美歌」で用いられる言葉の意味を知り、それらを美しい響きで歌うための基礎的な発声方法を学ぶ。アンサンブルができるようになるため、読譜力や聴く力のトレーニングも行う。中間発表と期末試験を実施する。						
到達目標	キリスト教における音楽の役割を知る。 身体の使い方と息の流れを感じて歌えるようになる。 歌詞の意味を理解し、初歩的な声楽アンサンブルのレパートリーが歌えるようになる。						
授業計画	第1回： 授業の進め方について 及び 教会暦について 第2回： 西洋音楽の歴史 1（古代） 及び 発声の基礎 立ち方 第3回： 西洋音楽の歴史 2（中世） 及び 発声の基礎 腹式呼吸 第4回： 西洋音楽の歴史 3（ルネサンス）及び 受難のコラールと復活のコラールについて 第5回： 楽典 1 及び 受難のコラール 日本語の聖歌 第6回： 楽典 2 及び 復活のコラール 日本語の聖歌 第7回： 楽典 3 及び 合唱曲（2声）・発声の基礎 重心 第8回： 西洋音楽の歴史 4（バロック）合唱曲（2声）・発声の基礎 腹筋と背筋 第9回： 西洋音楽の歴史 5（古典派）合唱曲（2声）・発声の基礎 表情筋について 第10回： 西洋音楽の歴史 6（ロマン派）ラテン語の合唱曲（2声）・発声の基礎 母音について 第11回： 楽典 4 及び ラテン語の合唱曲・発声の基礎 子音について 第12回： 楽典 5 及びラテン語の合唱曲・発声の基礎 背中面 第13回： 西洋音楽の歴史 7（近現代） 及び 合唱曲・発声の基礎 体を開く① 第14回： 楽典のまとめ 及び 合唱曲・発声の基礎 体を開く② 第15回： まとめと 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題曲について、歌詞の意味や発音、音程の復習をしておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での積極的な取り組みなど平常点の評価が70パーセント。期末試験が30パーセント。出席回数が10回に満たない場合は評価の対象としない。						
教科書	そのつど楽譜を配布する						
参考書	「キリスト教と音楽」 金澤正剛著 音楽之友社 「聖歌集」日本聖公会 「合唱音楽の歴史」皆川達夫著 全音楽譜出版社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	教会音楽入門B						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教音楽について知識を深めるとともに、アンサンブルをする楽曲のレパートリーを増やす。歌うための体と息の使い方を知り、鋭敏な耳と音楽的な身体感覚の獲得を目指す。						
授業の概要	キリスト教の礼拝において音楽の果たす役割を学ぶ。様々な宗教的声楽曲について知るとともに、ルター派のコラールや、2声または3声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など）を歌うための技術を習得する。さらにクリスマスの聖歌を実際の礼拝などで歌えるよう、実技指導を行う。中間発表と期末試験を行う。						
到達目標	・美しい声の響き、声楽アンサンブルの演奏ができるようになる。 ・明瞭な発音での歌唱ができるようになる。 ・良い声は身体とつながっていることの実感が持てるようになる。						
授業計画	第1回：授業の進め方 及び教会暦について 第2回：「キリスト教と音楽について」 及び 待降節のコラール 第3回：発声の発展 1 筋肉の連携 及び 待降節のコラール 第4回：「受難について」 及び 待降節のコラール 第5回：発声の発展 2 横隔膜 及び 待降節のコラール 第6回：「復活について」「」 及び 降臨節のコラール 第7回：発声の発展 3 顔面の響き 及び 降臨節のコラール 第8回：「クリスマスの音楽について」 及び 降臨節のコラール 第9回：発声の発展 4 体を響かせる 及び 降臨節のコラール 第10回：「レクイエムについて」 及び 降臨節のコラール 第11回：発声の発展 5 声を離す 及び 宗教的歌曲 1 第12回：「オラトリオについて」 及び 宗教的歌曲 2 第13回：「聖母マリア賛歌について」 及び 宗教的歌曲 3 第14回：発声の発展 6 まとめ 第15回：まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題になった曲について、歌詞の意味や発音、音程の復習をしておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業での積極的な取り組みなど平常点の評価が70パーセント。期末試験が30パーセント。出席回数が10回に満たない場合は評価の対象としない。						
教科書	そのつど楽譜を配布する						
参考書	「キリスト教と音楽」 金澤正剛著 音楽之友社 「聖歌集」日本聖公会 「合唱音楽の歴史」皆川達夫著 全音楽譜出版社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学II－10／（歴史と文化）						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	宗教国家アメリカの形成と発展						
授業の概要	本講義では、キリスト教史の観点から、アメリカの歴史（建国事情から現代まで）と文化を読み解きます。ビル・グリム・ファーザーズ、大覚醒、マニフェスト・ディステニーといった事例から、アメリカ建国におけるキリスト教の影響について考察するとともに、アメリカのデモクラシーの本質にも迫ります。また、アメリカの時事問題（例えばトランプ・ショック）についても言及し、国際的な視野と展望を広げ、受講生に読解の手がかりを与えます。						
到達目標	●キリスト教の観点から、アメリカの歴史と本質を学ぶこと。 ●講義を通してアメリカの特徴を知り、日米関係の在り方を考察できるようになること。						
授業計画	第1回：オリエンテーション サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』の予言 第2回：アメリカ・キリスト教史（1）宗教国家アメリカの胎動 第3回：アメリカ・キリスト教史（2）ビル・グリム・ファーザーズ 第4回：アメリカ・キリスト教史（3）大覚醒 第5回：アメリカ・キリスト教史（4）マニフェスト・ディステニー 第6回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（1）文化と宗教 第7回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（2）キリスト教とデモクラシー 第8回：アメリカの選民思想 第9回：アメリカのキリスト教原理主義（1）モンキー・トライアル 第10回：アメリカのキリスト教原理主義（2）妊娠中絶・同性愛の問題 第11回：大統領とキリスト教（1）政策と宗教 第12回：大統領とキリスト教（2）選挙と宗教 第13回：アメリカの国家戦略とイスラエル・ロビー 第14回：パトリック・ブキャナン『超大国の自殺』のインパクト 第15回：まとめと試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配布されたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学II－11／（歴史と文化）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「ハリー・ポッター」シリーズとキリスト教						
授業の概要	本講座では文化との関わりにおいてキリスト教を考察する。人間の究極的関心の表現であるキリスト教は文芸・美術・音楽など人間の文化活動に多大な影響を与えてきた。欧米の世俗化が指摘される今日でもこの状態は変わらず、一見非宗教的な作品にも実はキリスト教の世界観や価値観が色濃く反映している場合が多い。本講座では、人間の文化活動において認められるキリスト教的モチーフに注目し、キリスト教や聖書の知識がこれをより深く理解する一助となることを学ぶと共に、今日の世俗社会におけるキリスト教信仰の姿や意義をも考察していく。 本講座では、特にJ. K. ローリング著「ハリー・ポッター」シリーズを取り上げて、以上のような文化とキリスト教の関わりを考察していく。						
到達目標	「ハリー・ポッター」シリーズに潜むキリスト教の影響やキリスト教的要素を識別し、これを説明できるようになること。						
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 J. K. ローリングと「ハリー・ポッター」シリーズ 第3週 「ハリー・ポッター」とキリスト教 ーいわゆるハリポタ論争を通して 第4章 聖書における魔術と魔術師 第5週 「賢者の石」とは何か（1） ー「ハリー・ポッター」と宗教的象徴 第6週 西洋錬金術とキリスト教 第7週 「賢者の石」とは何か（2） ーそのキリスト教的意味 第8週 「ハリー・ポッター」と文学的錬金術（1） ー登場人物をめぐる 第9週 「ハリー・ポッター」と文学的錬金術（2） ーシリーズの構造 第10週 「秘密の部屋」の意味（1） ーアレゴリーとしての「ハリー・ポッター」 第11週 「秘密の部屋」の意味（2） ーアレゴリーを解釈する 第12週 ヴォルデモート卿の秘密（1） ーキリストの反転としてのヴォルデモート 題13週 ヴォルデモート卿の秘密（2） ー「ホークラックス」を解釈する 第14週 「ハリー・ポッター」における悪の問題と愛の倫理 第15週 現代英国におけるキリスト教と「ハリー・ポッター」、まとめ 注意：以上は計画であって、変更となる場合もある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修者が「ハリー・ポッター」シリーズの内容を知っているとの前提で講義を行う。従って、できれば小説ないし映画にてシリーズ全体に眼を通しておくこと（履修前にすませてあることが望ましい）。また、各回の授業で学んだことを復習し、消化するようにすること。疑問点を整理して、次の授業で教師に質問する習慣をつけることが望ましい。						
授業方法	主として講義。学生による発表を行う場合もある。						
評価基準と評価方法	レポートおよび平常点により評価する（レポート70%、平常点30%の予定）。学生発表を行う場合は、レポート点に加点する。平常点は、授業への参加度や受講態度などによって評価する。						
教科書	特になし。主に配布プリントを用いて授業を行う。						
参考書	旧新約聖書 J・K・ローリング著『ハリー・ポッター』シリーズ全7巻（静山社） John Granger, 『How Harry Cast His Spell』, (Tyndall House Publishers) 島田裕巳『ハリー・ポッター 現代の聖書』（朝日新聞出版） その他、授業中に紹介する。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学Ⅱ－13／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教霊性とヘンリ・ナウエン						
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また、欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講座では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。 今年度は、オランダ出身のローマ・カトリックの霊性思想家ヘンリ・ナウエン（1932年～1996年）の著書を通して現代のキリスト教霊性思想に触れつつ、今日の世俗社会を生きる私たちにとってのキリスト教の使信の意味を考えていく。 なお、この授業は、履修者による発表を中心とした演習形式で行っていく。						
到達目標	●ナウエンの著作を少なくとも2冊読み、その内容を説明できるようになる。 ●キリスト教霊性とは何か、その基本的特徴を説明できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 世俗化とキリスト教霊性の復興 第3回 キリスト教霊性とは何か 第4回 ヘンリ・ナウエンの生涯と業績 第5回 『アダムー神の愛する子』について 第6回 発表（1）：『アダム』第1章～第3章 第7回 発表（2）：『アダム』第4章～第6章 第8回 発表（3）：『アダム』第7章～結び 第9回 映像で見るイエスの生涯：映画「サン・オブ・ゴッド」から～宣教活動 第10回 映像で見るイエスの生涯：映画「サン・オブ・ゴッド」から～受難と復活 第11回 発表（4）：『いま、ここに生きる』第1章～第3章 第12回 発表（5）：『いま、ここに生きる』第4章～第6章 第13回 発表（6）：『いま、ここに生きる』第7章～第9章 第14回 発表（7）：『いま、ここに生きる』第10章～第11章 第15回 まとめ 注意：以上は予定です。履修者数・進行状況等により変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的に演習形式で授業を行いますので、履修者は全員ナウエンの著作を読み、発表を行うこととなります。あらかじめ発表をレポートにまとめ、担当当日に履修者全員に配布できるよう準備してください。						
授業方法	演習形式。履修者による発表とディスカッションを基本とします。 また、必要に応じて講義も行います。						
評価基準と評価方法	課題点と平常点によって評価します（課題点70%、平常点30%の予定）。 課題点は授業中の発表と提出物、期末レポートなどによって評価します。 平常点は質疑応答やディスカッションなど授業への参加度および受講態度によって評価します。						
教科書	ヘンリ・ナウエン著・宮本憲訳『アダムー神の愛する子』改訂新版（聖公会出版）ISBN978-4-88274-237-1 ＊担当箇所の発表の他、全体を通読してレポートを書いてもらいますので、必ず購入して下さい。						
参考書	旧新約聖書 ヘンリ・ナウエン『いま、ここに生きる』（あめんどう） A. E. マクグラス著『キリスト教の霊性』（教文館） ミッシェル・フォード『傷ついた預言者ーヘンリ・ナウエンの肖像』（聖公会出版） その他、授業中に紹介します。 なお、ナウエンの著書はキリスト教センターに配架してあります。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学Ⅱ－14／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キーワードで読み解くキリスト教						
授業の概要	キリスト教のエッセンスを各キーワードに応じて講義します。キリスト教以外の宗教をはじめ、神話、歴史、哲学、思想、文学、芸術といった広範囲にわたる話題を提供します。受講生には、本学の建学の精神に深く関わるキリスト教思想の内容を習得してもらうとともに、広く人文科学の方法論や総合知の重要性についても学習してもらいます。教科書『増補版 キリスト教思想』の内容に従って講義を進めますので、必ず購入しておいて下さい。						
到達目標	●到達目標は、様々な事例を通して、現代社会におけるキリスト教の意味を考察できるようになることです。 ●キリスト教の特徴について、具体的に述べるができるようになることです。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：キーワード①「罪」―失樂園という自由のドラマ 第3回：キーワード②「悪」―神を信じるがゆえの苦しみ 第4回：キーワード③「死」―＜終活＞に備えて 第5回：キーワード④「信仰」―信仰は質より量！？ 第6回：キーワード⑤「愛」―この不自然な感情 第7回：キーワード⑥「癒し」―救済は治癒である 第8回：キーワード⑦「寛容」 （1）―不寛容なキリスト教 第9回：キーワード⑦「寛容」 （2）―寛容の合法的制度化とデモクラシー 第10回：キーワード⑧「正義」―＜正義の美り＞である平和 第11回：キーワード⑨「地獄」 （1）―地獄への畏怖と応報の秩序 第12回：キーワード⑨「地獄」 （2）―ダンテ『神曲』と地獄の地理学 第13回：キーワード⑩「自殺」―人間の特権としての自殺？ 第14回：キーワード⑪「職業」―転職より天職を求めて 第15回：まとめと試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書の指定箇所を一読すること 授業後学習：前回の復習をすること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	『増補版 キリスト教思想断想』、近藤剛、ナカニシヤ出版、ISBN978-4-7795-0882-0						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学Ⅱ－18／（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教						
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、人口においてキリスト教と共に世界3大宗教をなしているイスラム教とヒンドゥー教を取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうして私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。						
到達目標	●宗教とは何かを説明できるようになる。 ●「キリスト教学Ⅰ／キリスト教の基礎」で学んだ聖書の信仰に対する理解を深める。 ●他の諸宗教、特にイスラム教とヒンドゥー教の基本的特徴を説明できるようになる。 ●イスラム教、ヒンドゥー教などとキリスト教の違いを説明できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 宗教とは何か 第3回 日本人の宗教性とその問題点 第4回 聖書の信仰（1）：ヘブライ語聖書 第5回 聖書の信仰（2）：新約聖書 第6回 ムハンマドとイスラム教 第7回 クルアーンとイスラム教の信仰 第8回 画像で見るイスラム教 第9回 イスラム教とキリスト教を比較する 第10回 ヒンドゥー教の歴史と神々 第11回 ヒンドゥー教の信仰 第12回 画像で見るヒンドゥー教 第13回 インド宗教としての仏教 第14回 ヒンドゥー教とキリスト教を比較する 第15回 現代世界におけるキリスト教と諸宗教 ※以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回復習をしっかり行い、授業で学んだことを消化するようにすること。疑問点を整理して、次の授業で教師に質問する習慣をつけることが望ましい。						
授業方法	主として講義形式。履修者に発表をしてもらう場合もあります。						
評価基準と評価方法	レポートまたは試験（複数回）、平常点により評価します（試験・レポート70%、平常点30%の予定）。平常点は授業への参加度や受講態度により評価します。						
教科書	教科書はありません。主に配付資料によって授業を行います。配付資料は基本的に松蔭manabaを通して配布します。授業に先だって松蔭manabaを確認し、配付資料を各自印刷して、授業に持参してください。						
参考書	旧新約聖書 『コーラン』（岩波文庫版、全3巻） 『バガヴァッド・ギーター』（岩波文庫版） M. B. ワング『ヒンドゥー教』（青土社） M. S. ゴードン『イスラム教』（青土社） その他、必要に応じて紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学Ⅱ－4／（聖書）						
担当教員	木原 桂二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	新約聖書の思想						
授業の概要	「新約聖書」は、27冊の書物を取りまとめたものです。どの書物も、イエスによって証しされた「福音」が共通の基盤になっていますが、各書物の著者は、様々な地域や民族の出身者であり、それぞれが独自の思想を持っています。また、私たちとは異なる文化が背景にあるため、その内容を理解するためには乗り越えるべき高いハードルがあります。そこで本授業では、新約聖書を少しでも身近に感じ、その思想を生かすことができるように聖書本文とその背景についての学びを深めていきます。						
到達目標	(1) 新約聖書の四福音書それぞれの特徴の背景となっている歴史と成立の事情を理解できるようにする。 (2) イエスとパウロの思想の特徴を理解し、説明できるようにする。 (3) 新約聖書の思想を踏まえて、現代社会の諸問題について自分の意見を持てるようにする。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポートについての説明 （入門）新約聖書とは何か？－ユダヤ教からキリスト教へ 第2回 イエスの言行録①－共観福音書（マタイ・マルコ・ルカ）序説 第3回 イエスの言行録②－共観福音書（マタイ・マルコ）のイエス像 第4回 イエスの言行録③－共観福音書（ルカ）のイエス像／ヨハネ福音書のイエス像 第5回 使徒の時代－イエス以後の思想と信仰 第6回 新約聖書の思想イエス編①－エゴイズム 第7回 新約聖書の思想イエス編②－財産所有 第8回 新約聖書の思想イエス編③－隣人愛 第9回 新約聖書の思想イエス編④－暴力と平和 第10回 新約聖書の思想イエス編⑤－差別と和解 第11回 新約聖書の思想イエス編⑥－罪と赦し 第12回 新約聖書の思想イエス編⑦－子どもの人権 第13回 新約聖書の思想パウロ編①－人間の限界 第14回 新約聖書の思想パウロ編②－共同体（共に生きる集り） 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	多くの学生は新約聖書に触れる機会が少なく、授業で取り扱える範囲も限られます。それゆえ、普段から聖書本文（日本語訳）を読み、疑問に思うことを書き留めるようにして下さい。それを教師に質問して頂ければ、授業に関連づける形で応答したいと考えています（質問内容は、下記「評価方法」に記載されている授業内小レポートに記述して頂きます）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	①レポート評価 70％ ②授業内小レポートの評価（不定期に実施）30％ ③私語や授業態度も減点の対象になるので注意してください。						
教科書	1. 『聖書』 ※翻訳は問いません。ご自分の聖書をお持ち下さい。 2. 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのレジュメに基づいて授業を進めます。						
参考書	参考書は、必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学Ⅱ－6／（聖書）						
担当教員	宮田 玲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	モーセ五書を学ぶ						
授業の概要	モーセ五書とは、旧約聖書の最初におかれた五つの書のこと、旧約聖書のもっとも基本的な内容が記されている部分です。具体的には、「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」の五つの書を指します。この中にはわたしたちにもよく知られている物語が多く含まれており、また、新約聖書のエピソードの背景となるものもあります。授業では、モーセ五書を中心として、旧約聖書についての理解を深めていきます。特に、「創世記」と「出エジプト記」からいくつかの物語を取り上げて、これまでどのように読まれてきたかを紹介します。						
到達目標	旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について基本的な知識を獲得でき、書かれている内容や物語に対する理解を養うことができます。また、旧約聖書とのかかわりから新約聖書を眺める視座を得ることができます。						
授業計画	第1回 新約聖書と旧約聖書、聖書の舞台 第2回 モーセ五書の成り立ち 第3回 物語（1） アダムとイブの物語 第4回 物語（2） バベルの塔の物語 第5回 物語（3） アブラハムとサラの物語 第6回 物語（4） サラとハガルをめぐる 第7回 物語（5） 小テスト・イサク奉獻 第8回 物語（6） イサクとリベカ 第9回 物語（7） ヤコブとエサウ 第10回 物語（8） ヤコブの夢 第11回 物語（9） 出エジプト：モーセ 第12回 物語（10） 出エジプト：エジプトから荒野へ 第13回 物語（11） 十戒 第14回 物語（12） カナンへ：モーセの死 第15回 まとめ、質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回の授業の内容を復習してきてください。 授業後学習：授業時に配布するプリントに授業内容の要点をまとめておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 60%、平常点 40%（小テストを含みます）						
教科書	指定しません。なお、随時プリントを配布します。						
参考書	並木浩一・荒井章三（編）『旧約聖書を学ぶ人のために』 世界思想社 ISBN:978-4790715566 石川立・中村信博・越後屋朗（編）『聖書 語りの風景』 キリスト新聞社 ISBN:978-4873954762						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学II－7／（キリスト教思想）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ドストエフスキーとキリスト教						
授業の概要	本講座ではキリスト教の思想面に光を当てる。19世紀や20世紀の代表的なキリスト教作家や思想家を取り上げ、その作品や著作の中で神・自由・悪・救いなどといった人間の本質に関わる諸問題がどのように扱われているかを考察する。また、彼らの生涯、聖書やキリストに対する理解、さらに彼らの属する社会や教会の特徴などにも注目し、彼らの思想をその時代的・社会的背景において理解することにも努める。 本講座で特に近代の代表的キリスト教作家である19世紀ロシアの文豪ドストエフスキーを取り上げる。彼の代表作においてキリスト教的モチーフがどのように扱われているかを詳細に検討すると共に、当時のロシア社会やロシア・キリスト教との関わりにおいて彼の思想を解明していく。						
到達目標	●作家ドストエフスキーの生涯と19世紀ロシアに関する基本的知識を得る。 ●ロシアのキリスト教の基本的特徴を知る。 ●キリスト教の人間観を理解する。 ●『罪と罰』に親しみ、その中に現れるキリスト教的モチーフや表象を指摘できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ドストエフスキー：その生涯、信仰、作品 第3回 19世紀のロシア（1）：社会と人々 第4回 19世紀のロシア（2）：政治運動とロシア文学 第5回 ロシアのキリスト教の特徴 第6回 キリスト教の人間観（1）：人間の創造と墮落 第7回 キリスト教の人間観（2）：キリストと救い 第8回 ドストエフスキーの問い：近代合理主義と人間の自由 第9回 「罪と罰」：作品概観 第10回 映像でみる「罪と罰」（1）ヘラスコーリニコフ 第11回 映像でみる「罪と罰」（2）ソーニャ 第12回 「罪と罰」におけるキリスト教的モチーフ（1）：ラスコーリニコフの秘密 第13回 「罪と罰」におけるキリスト教的モチーフ（2）：マルメラードフの救済観 第14回 「罪と罰」におけるキリスト教的モチーフ（3）：ソーニャとキリスト 第15回 「罪と罰」以後、まとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の復習を忘れないようにして下さい。また、『罪と罰』を通読し、レポートを書いてもらいます。聖書にも頻繁に言及しますので、各自、関連箇所を熟読玩味するようにして下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題点（中間レポートまたは中間テスト、期末レポート）及び平常点（授業への参加度、受講態度など）により評価します（課題点70%、平常点30%の予定）。						
教科書	ドストエフスキー 著『罪と罰』（新潮文庫）（新潮社） * 通読してレポートを書いてもらいます。必ず、購入するように。 旧新約聖書（指示に従って授業に持参すること）						
参考書	ドストエフスキー 著『地下室の手記』（新潮文庫） ドストエフスキー著『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』（翻訳者・出版社は不問） チェルヌイシェフスキ著『何をなすべきか（上・下）』（岩波文庫） セルノーフ著『ロシア正教会の歴史』（日本キリスト教団出版局） R. ヒングリー著『19世紀ロシアの作家と社会』（平凡社ないし中公文庫） 川端香男里著『ロシア その民族とこころ』（講談社学術文庫） * ドストエフスキーに関する文献は数多く存在します。授業中に必要に応じて紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学Ⅱ－8／（キリスト教思想）						
担当教員	岩井 謙太郎						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代日本文学とキリスト教の関わり						
授業の概要	本講義では、明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教をモチーフとした文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとして近現代日本文学とキリスト教の関わりについて考察することを通じて、キリスト教思想の特性を明らかにする。						
到達目標	近現代日本文学作品に見られるキリスト教思想を考察することにより、キリスト教と日本の文化との関わりについての理解を深めることができる。						
授業計画	以下のテーマを中心に授業を進めていく。 第1回 オリエンテーション／キリスト教文学とは何か 第2回 キリスト教思想の諸特性① 創造論 第3回 キリスト教思想の諸特性② 救済論 第4回 夏目漱石『こころ』（1914年） 第5回 日本文学とキリスト教の接点 第6回 福永武彦『草の花』（1954年） 第7回 キリスト教における愛の問題 第8回 賀川豊彦『死線を越えて』（1920年） 第9回 キリスト教の社会との関わり 第10回 三浦綾子『氷点』（1965年） 第11回 三浦綾子『続・氷点』（1971年） 第12回 キリスト教における原罪と赦し 第13回 遠藤周作『深い河』（1993年） 第14回 キリスト教の他宗教との関わり 第15回 まとめ／近現代日本文学におけるキリスト教思想						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる文学作品（本シラバスに挙げた小説）のなかで関心のある（あるいは興味を持てそうな）ものを各自ピックアップし、購入もしくは図書館で閲覧するなどして、一読しておくこと。						
授業方法	講義科目ではあるが、授業内容に対する意見や要望などをアンケートし、出来るだけ受講者各人の主体的関心を反映させながら授業を進めたい。また、理解の一助となるよう、映像（DVD等）の鑑賞も採り入れる予定である。						
評価基準と評価方法	学期末に提出するレポート（70％） 平常点【感想文および授業に対する積極的な取り組み】（30％）						
教科書	教科書は使用しない。 レジュメを適宜配布する。						
参考書	安森敏隆他編『キリスト教文学を学ぶ人のために』世界思想社、2002年 その他、講義テーマに即した参考文献を授業内で随時紹介していく。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教学II－9／（歴史と文化）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	英国キリスト教史：イングランドとスコットランドのキリスト教						
授業の概要	本講座ではキリスト教の歴史を学ぶ。キリスト教は古代のパレスチナにユダヤ教を母胎として生まれながら、はやくも1世紀にはその民族的な枠を脱し、その後二千年の時をかけて数多の文化や言語の壁を越えて世界中に広まった普遍宗教である。その過程で、各地の文化や社会を造りかえると共に、自らも大きな変貌を遂げていった。こうして、今日のキリスト教は極めて多様性に富む宗教となっている。キリスト教のこのようなクロスカルチャルな歴史的発展のプロセスを様々な視点から考察していくのが、本講座の課題である。 ここでは英国のキリスト教を取り上げ、古代から宗教改革期までのその歴史的歩みを学んでいく。英国は多民族国家であるが、特にイングランドとスコットランドの教会に着目し、その歴史を相互に対比させながら考察する。それにより、この2つの地域に何故異なるタイプのキリスト教（アングリカンと長老教会）が成立するに至ったかを考える。						
到達目標	●英国の民族的多様性を説明することができる。 ●英国キリスト教史の概略を説明することができる。 ●イングランドとスコットランドのキリスト教の特徴と違いを説明することができる。 ●キリスト教の内的多様性とその由来を複眼的に考えることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教と宣教 第3回 ローマ帝国のキリスト教とブリタンニア 第4回 英国概観：イングランドとスコットランド 第5回 ケルト人とキリスト教 第6回 アウグスティヌス宣教団とローマ系キリスト教の再来 第7回 ホイットビー会議とローマ系キリスト教の勝利 第8回 中世英国のキリスト教 第9回 宗教改革の暁の星：ジョン・ウィクリフ 第10回 宗教改革概観 第11回 イングランド宗教改革（1）：イングランド教会の独立 第12回 イングランド宗教改革（2）：アングリカニズムの確立 第13回 ジョン・ノックスとスコットランド宗教改革 第14回 スコットランド長老主義の確立と主教派教会（聖公会） 第15回 その後の英国キリスト教 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	復習をしっかりと行うこと。その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにしておくことが望ましい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験やレポートなどの課題および平常点により評価します（課題70%、平常点30%の予定）。レポートや試験は複数回行います。平常点は授業への参加度や受講態度などによって評価します。						
教科書	特にありません。教師の準備する配付資料によって授業を行います。						
参考書	『ベアダ 英国民教会史』（高橋博訳、講談社学術文庫） その他、授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教思想Ⅰ						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ドストエフスキーとキリスト教						
授業の概要	本講座ではキリスト教の思想面に光を当てる。19世紀や20世紀の代表的なキリスト教作家や思想家を取り上げ、その作品や著作の中で神・自由・悪・救いなどといった人間の本质に関わる諸問題がどのように扱われているかを考察する。また、彼らの生涯、聖書やキリストに対する理解、さらに彼らの属する社会や教会の特徴などにも注目し、彼らの思想をその時代的・社会的背景において理解することにも努める。 本講座で特に近代の代表的キリスト教作家である19世紀ロシアの文豪ドストエフスキーを取り上げる。彼の代表作においてキリスト教的モチーフがどのように扱われているかを詳細に検討すると共に、当時のロシア社会やロシア・キリスト教との関わりにおいて彼の思想を解明していく。						
到達目標	●作家ドストエフスキーの生涯と19世紀ロシアに関する基本的知識を得る。 ●ロシアのキリスト教の基本的特徴を知る。 ●キリスト教の人間観を理解する。 ●『罪と罰』に親しみ、その中に現れるキリスト教的モチーフや表象を指摘できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ドストエフスキー：その生涯、信仰、作品 第3回 19世紀のロシア（1）：社会と人々 第4回 19世紀のロシア（2）：政治運動とロシア文学 第5回 ロシアのキリスト教の特徴 第6回 キリスト教の人間観（1）：人間の創造と墮落 第7回 キリスト教の人間観（2）：キリストと救い 第8回 ドストエフスキーの問い：近代合理主義と人間の自由 第9回 「罪と罰」：作品概観 第10回 映像でみる「罪と罰」（1）ヘラスコーリニコフ 第11回 映像でみる「罪と罰」（2）ソーニヤ 第12回 「罪と罰」におけるキリスト教的モチーフ（1）：ラスコーリニコフの秘密 第13回 「罪と罰」におけるキリスト教的モチーフ（2）：マルメラードフの救済観 第14回 「罪と罰」におけるキリスト教的モチーフ（3）：ソーニヤとキリスト 第15回 「罪と罰」以後、まとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の復習を忘れないようにして下さい。また、『罪と罰』を通読し、レポートを書いてもらいます。聖書にも頻繁に言及しますので、各自、関連箇所を熟読玩味するようにして下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題点（中間レポートまたは中間テスト、期末レポート）及び平常点（授業への参加度、受講態度など）により評価します（課題点70%、平常点30%の予定）。						
教科書	ドストエフスキー 著『罪と罰』（新潮文庫）（新潮社） *通読してレポートを書いてもらいます。必ず、購入するように。 旧新約聖書（指示に従って授業に持参すること）						
参考書	ドストエフスキー 著『地下室の手記』（新潮文庫） ドストエフスキー 著『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』（翻訳者・出版社は不問） チェルヌイシェフスキ著『何をなすべきか（上・下）』（岩波文庫） セルノーフ著『ロシア正教会の歴史』（日本キリスト教団出版局） R. ヒングリー著『19世紀ロシアの作家と社会』（平凡社ないし中公文庫） 川端香男里著『ロシア その民族とこころ』（講談社学術文庫） *ドストエフスキーに関する文献は数多く存在します。授業中に必要に応じて紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教思想Ⅱ						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キーワードで読み解くキリスト教						
授業の概要	キリスト教のエッセンスを各キーワードに応じて講義します。キリスト教以外の宗教をはじめ、神話、歴史、哲学、思想、文学、芸術といった広範囲にわたる話題を提供します。受講生には、本学の建学の精神に深く関わるキリスト教思想の内容を習得してもらうとともに、広く人文科学の方法論や総合知の重要性についても学習してもらいます。教科書『増補版 キリスト教思想』の内容に従って講義を進めますので、必ず購入しておいて下さい。						
到達目標	●到達目標は、様々な事例を通して、現代社会におけるキリスト教の意味を考察できるようになることです。 ●キリスト教の特徴について、具体的に述べるができるようになることです。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：キーワード①「罪」―失樂園という自由のドラマ 第3回：キーワード②「悪」―神を信じるがゆえの苦しみ 第4回：キーワード③「死」―＜終活＞に備えて 第5回：キーワード④「信仰」―信仰は質より量！？ 第6回：キーワード⑤「愛」―この不自然な感情 第7回：キーワード⑥「癒し」―救済は治癒である 第8回：キーワード⑦「寛容」 (1) ―不寛容なキリスト教 第9回：キーワード⑦「寛容」 (2) ―寛容の合法的制度化とデモクラシー 第10回：キーワード⑧「正義」―＜正義の美り＞である平和 第11回：キーワード⑨「地獄」 (1) ―地獄への畏怖と応報の秩序 第12回：キーワード⑨「地獄」 (2) ―ダンテ『神曲』と地獄の地理学 第13回：キーワード⑩「自殺」―人間の特権としての自殺？ 第14回：キーワード⑪「職業」―転職より天職を求めて 第15回：まとめと試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書の指定箇所を一読すること 授業後学習：前回の復習をすること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	『増補版 キリスト教思想断想』、近藤剛、ナカニシヤ出版、ISBN978-4-7795-0882-0						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と諸宗教						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教						
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、人口においてキリスト教と共に世界3大宗教をなしているイスラム教とヒンドゥー教を取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうして私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。						
到達目標	●宗教とは何かを説明できるようになる。 ●「キリスト教学Ⅰ／キリスト教の基礎」で学んだ聖書の信仰に対する理解を深める。 ●他の諸宗教、特にイスラム教とヒンドゥー教の基本的特徴を説明できるようになる。 ●イスラム教、ヒンドゥー教などとキリスト教の違いを説明できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 宗教とは何か 第3回 日本人の宗教性とその問題点 第4回 聖書の信仰（1）：ヘブライ語聖書 第5回 聖書の信仰（2）：新約聖書 第6回 ムハンマドとイスラム教 第7回 クルアーンとイスラム教の信仰 第8回 画像で見るイスラム教 第9回 イスラム教とキリスト教を比較する 第10回 ヒンドゥー教の歴史と神々 第11回 ヒンドゥー教の信仰 第12回 画像で見るヒンドゥー教 第13回 インド宗教としての仏教 第14回 ヒンドゥー教とキリスト教を比較する 第15回 現代世界におけるキリスト教と諸宗教 ※以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回復習をしっかり行い、授業で学んだことを消化するようにすること。疑問点を整理して、次の授業で教師に質問する習慣をつけることが望ましい。						
授業方法	主として講義形式。履修者に発表をしてもらう場合もあります。						
評価基準と評価方法	レポートまたは試験（複数回）、平常点により評価します（試験・レポート70%、平常点30%の予定）。平常点は授業への参加度や受講態度により評価します。						
教科書	教科書はありません。主に配付資料によって授業を行います。配付資料は基本的に松蔭manabaを通して配布します。授業に先だって松蔭manabaを確認し、配付資料を各自印刷して、授業に持参してください。						
参考書	旧新約聖書 『コーラン』（岩波文庫版、全3巻） 『バガヴァッド・ギーター』（岩波文庫版） M. B. ワング『ヒンドゥー教』（青土社） M. S. ゴードン『イスラム教』（青土社） その他、必要に応じて紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と文化Ⅰ						
担当教員	岩井 謙太郎						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代日本文学とキリスト教の関わり						
授業の概要	本講義では、明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教をモチーフとした文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとして近現代日本文学とキリスト教の関わりについて考察することを通じて、キリスト教思想の特性を明らかにする。						
到達目標	近現代日本文学作品に見られるキリスト教思想を考察することにより、キリスト教と日本の文化との関わりについての理解を深めることができる。						
授業計画	以下のテーマを中心に授業を進めていく。 第1回 オリエンテーション／キリスト教文学とは何か 第2回 キリスト教思想の諸特性① 創造論 第3回 キリスト教思想の諸特性② 救済論 第4回 夏目漱石『こころ』（1914年） 第5回 日本文学とキリスト教の接点 第6回 福永武彦『草の花』（1954年） 第7回 キリスト教における愛の問題 第8回 賀川豊彦『死線を越えて』（1920年） 第9回 キリスト教の社会との関わり 第10回 三浦綾子『氷点』（1965年） 第11回 三浦綾子『続・氷点』（1971年） 第12回 キリスト教における原罪と赦し 第13回 遠藤周作『深い河』（1993年） 第14回 キリスト教の他宗教との関わり 第15回 まとめ／近現代日本文学におけるキリスト教思想						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる文学作品（本シラバスに挙げた小説）のなかで関心のある（あるいは興味を持てそうな）ものを各自ピックアップし、購入もしくは図書館で閲覧するなどして、一読しておくこと。						
授業方法	講義科目ではあるが、授業内容に対する意見や要望などをアンケートし、出来るだけ受講者各人の主体的関心を反映させながら授業を進めたい。また、理解の一助となるよう、映像（DVD等）の鑑賞も採り入れる予定である。						
評価基準と評価方法	学期末に提出するレポート（70％） 平常点【感想文および授業に対する積極的な取り組み】（30％）						
教科書	教科書は使用しない。 レジュメを適宜配布する。						
参考書	安森敏隆他編『キリスト教文学を学ぶ人のために』世界思想社、2002年 その他、講義テーマに即した参考文献を授業内で随時紹介していく						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と文化Ⅱ						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「ハリー・ポッター」シリーズとキリスト教						
授業の概要	本講座では文化との関わりにおいてキリスト教を考察する。人間の究極的関心の表現であるキリスト教は文芸・美術・音楽など人間の文化活動に多大な影響を与えてきた。欧米の世俗化が指摘される今日でもこの状態は変わらず、一見非宗教的な作品にも実はキリスト教の世界観や価値観が色濃く反映している場合が多い。本講座では、人間の文化活動において認められるキリスト教的モチーフに注目し、キリスト教や聖書の知識がこれをより深く理解する一助となることを学ぶと共に、今日の世俗社会におけるキリスト教信仰の姿や意義をも考察していく。 本講座では、特にJ.K. ローリング著「ハリー・ポッター」シリーズを取り上げて、以上のような文化とキリスト教の関わりを考察していく。						
到達目標	「ハリー・ポッター」シリーズに潜むキリスト教の影響やキリスト教的要素を識別し、これを説明できるようになること。						
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 J. K. ローリングと「ハリー・ポッター」シリーズ 第3週 「ハリー・ポッター」とキリスト教 ーいわゆるハリポタ論争を通して 第4章 聖書における魔術と魔術師 第5週 「賢者の石」とは何か（1） ー「ハリー・ポッター」と宗教的象徴 第6週 西洋錬金術とキリスト教 第7週 「賢者の石」とは何か（2） ーそのキリスト教的意味 第8週 「ハリー・ポッター」と文学的錬金術（1） ー登場人物をめぐる 第9週 「ハリー・ポッター」と文学的錬金術（2） ーシリーズの構造 第10週 「秘密の部屋」の意味（1） ーアレゴリーとしての「ハリー・ポッター」 第11週 「秘密の部屋」の意味（2） ーアレゴリーを解釈する 第12週 ヴォルデモート卿の秘密（1） ーキリストの反転としてのヴォルデモート 第13週 ヴォルデモート卿の秘密（2） ー「ホークラックス」を解釈する 第14週 「ハリー・ポッター」における悪の問題と愛の倫理 第15週 現代英国におけるキリスト教と「ハリー・ポッター」、まとめ 注意：以上は計画であって、変更となる場合もある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修者が「ハリー・ポッター」シリーズの内容を知っているとの前提で講義を行う。従って、できれば小説ないし映画にてシリーズ全体に眼を通しておくこと（履修前にすませることが望ましい）。また、各回の授業で学んだことを復習し、消化するようにすること。疑問点を整理して、次の授業で教師に質問する習慣をつけることが望ましい。						
授業方法	主として講義。学生による発表を行う場合もある。						
評価基準と評価方法	レポートおよび平常点により評価する（レポート70%、平常点30%の予定）。学生発表を行う場合は、レポート点に加点する。平常点は、授業への参加度や受講態度などによって評価する。						
教科書	特になし。主に配布プリントを用いて授業を行う。						
参考書	旧新約聖書 J・K・ローリング著『ハリー・ポッター』シリーズ全7巻（静山社） John Granger, 『How Harry Cast His Spell』, (Tyndall House Publishers) 島田裕巳『ハリー・ポッター 現代の聖書』（朝日新聞出版） その他、授業中に紹介する。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	市川 哲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門 キリスト教、特に聖書の信仰について理解を深め、また文化としてのキリスト教、という側面にも触れる機会を持つ。						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 この「キリスト教の基礎」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。 この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。 ① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。 ② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。 ③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。 この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。						
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの生涯と教えを知り、理解すること。 キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観、そして欧米の文化の重要な要素としての宗教を理解することは、国際性を身に付ける上でも、また今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことでも、大きな意味があります。そのための助けとなることができると思います。						
授業計画	15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性あります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行ないます。 第1回 キリスト教とは（まずはじめに）、聖書とはどのような書物かⅠ 第2回 聖書とはどのような書物かⅡ 第3回 イエス・キリストの生涯 第4回 イエスの福音Ⅰ 悪霊と病氣直し 第5回 イエスの福音Ⅱ たとえ話と農民への視座 第6回 イエスの福音Ⅲ 富と税金、そして律法への挑戦 第7回 イエスの福音Ⅳ いと小さき者 第8回 受難 第9回 復活 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致 第10回 旧約聖書の時代史Ⅰ バビロン捕囚を頂点として 第11回 旧約聖書の時代史Ⅱ イスラエル共同体の成立 第12回 クリスマスとキリスト教の音楽 第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災 第14回 旧約聖書の時代史Ⅲ 捕囚以降 第15回 破壊的カルトについて						
授業外における学習（準備学習の内容）	●毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）						
授業方法	講義 それに加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	課題点と平常点によって評価します（原則として課題点70%、平常点30%）。 期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。 出席については、講義期間全体のうち5分の4の出席が必要とします（補講・試験を除く）。出席日数を点数に換算することはありません。 点数内訳 ① 小レポート（30点） ② 論文 または 定期試験（70点） 論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。 ③ 教会出席レポート これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。 ④ 文献紹介						

評価基準と 評価方法	各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約統編付き）日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人のみ、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編つき、版はいずれのものでも可）を購入してください。
参考書	参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	市川 哲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門 キリスト教、特に聖書の信仰について理解を深め、また文化としてのキリスト教、という側面にも触れる機会を持つ。						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 この「キリスト教の基礎」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。 この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。 ① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。 ② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。 ③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊のカルト”の危険性についての知識。 この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。						
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの生涯と教えを知り、理解すること。 キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観、そして欧米の文化の重要な要素としての宗教を理解することは、国際性を身に付ける上でも、また今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことでも、大きな意味があります。そのための助けとなることができると思います。						
授業計画	15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行ないます。 第1回 キリスト教とは（まずはじめに）、聖書とはどのような書物かⅠ 第2回 聖書とはどのような書物かⅡ 第3回 イエス・キリストの生涯 第4回 イエスの福音Ⅰ 悪霊と病氣直し 第5回 イエスの福音Ⅱ たとえ話と農民への視座 第6回 イエスの福音Ⅲ 富と税金、そして律法への挑戦 第7回 イエスの福音Ⅳ いと小さき者 第8回 受難 第9回 復活 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致 第10回 旧約聖書の時代史Ⅰ バビロン捕囚を頂点として 第11回 旧約聖書の時代史Ⅱ イスラエル共同体の成立 第12回 クリスマスとキリスト教の音楽 第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災 第14回 旧約聖書の時代史Ⅲ 捕囚以降 第15回 破壊のカルトについて						
授業外における学習（準備学習の内容）	●毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）						
授業方法	講義 それに加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	課題点と平常点によって評価します（原則として課題点70%、平常点30%）。 期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。 出席については、講義期間全体のうち5分の4の出席が必要とします（補講・試験を除く）。出席日数を点数に換算することはありません。 点数内訳 ① 小レポート（30点） ② 論文 または 定期試験（70点） 論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。 ③ 教会出席レポート これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。 ④ 文献紹介						

評価基準と 評価方法	各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約統編付き）日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人のみ、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編つき、版はいずれのものでも可）を購入してください。
参考書	参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	木原 桂二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の聖典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。そこで、キリスト教の信仰・思想・文化にとって重要な意味を持つ「聖書」の理解を深めることを目指し、その歴史と概観を中心に扱う。具体的には、キリスト教信仰の出発点となるユダヤ教の歴史と、イエス・キリストの活動についての理解を得ることができるよう、聖書の内容に触れていく。						
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概略を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの生涯と教えを知り、理解すること。 ●聖書の重要な言葉を覚え、意味を理解すること。 ●キリスト教が、現代人であるわれわれにとって、どのような意味を持つものであるかを考えられるようになること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教の基礎知識としての旧約聖書 ユダヤ人の聖書と歴史 第3回 キリスト教の基礎知識としての新約聖書 イエスの登場と歴史 第4回 旧約聖書（1）天地万物の創造－創世記 第5回 旧約聖書（2）言葉と人間－創世記 第6回 旧約聖書（2）虐げられた人々の解放－出エジプト記 第7回 旧約聖書（3）偶像崇拜禁止について－出エジプト記 第8回 旧約聖書（4）神からの警告－アモス書 第9回 旧約聖書（5）苦難の意味－ヨブ記 第10回 新約聖書（1）神の国について ※以下、主に「福音書」の内容を中心とする 第11回 新約聖書（2）罪と赦しと和解について 第12回 新約聖書（3）富の問題について 第13回 新約聖書（4）「いのち」について 第14回 新約聖書（5）隣人愛について 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	●毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）。 ●授業中に言及する聖書箇所を熟読吟味すること。 ●新約聖書中の4つの福音書の通読（レポート提出あり）。 ●聖書に含まれる文書の名称を覚えること（試験で確認する）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題点と平常点によって評価します（原則として課題点70%、平常点30%）。平常点は、授業内小レポートや小テストなどにより評価します。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約統編付き） 日本聖書協会。 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 ●配布資料を用いて授業をします。配布資料は前もって松蔭manabaにアップするので、各自印刷して授業に持参して下さい。						
参考書	参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教の基礎知識						
授業の概要	神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになるため、本講義ではキリスト教の基礎知識を提供します。旧約聖書と新約聖書の概要（名称と特徴）、イエス・キリストの生涯と思想、キリスト教の歴史の概略（世界史に与えたキリスト教の影響、特に民主主義や資本主義の成り立ちとの関連性）などを説明していきます。また、キリスト教思想のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。						
到達目標	●神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになること。 ●キリスト教の基本的特徴を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約聖書の名称と特徴を覚えること。 ●キリスト教史の概略を理解すること。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:現代社会とキリスト教 第3回:旧約聖書ダイジェスト (1) 天地創造の神話 第4回:旧約聖書ダイジェスト (2) イスラエル民族の興亡 第5回:旧約聖書ダイジェスト (3) 救世主の待望 第6回:新約聖書ダイジェスト (1) 新約聖書成立の謎 第7回:新約聖書ダイジェスト (2) イエス・キリストの生涯 第8回:新約聖書ダイジェスト (3) イエス・キリストの思想 第9回:キリスト教史ダイジェスト (1) 古代ローマ帝国とキリスト教 第10回:キリスト教史ダイジェスト (2) 中世における教皇権の伸長と衰退 第11回:キリスト教史ダイジェスト (3) ローマ教皇列伝 第12回:キリスト教史ダイジェスト (4) 宗教改革とヨーロッパ近代 第13回:キリスト教史ダイジェスト (5) イギリス宗教改革とデモクラティズム 第14回:キリスト教史ダイジェスト (6) 日本のキリスト教と武士道 第15回:まとめと試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	準備学習：授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。 授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配られたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30% 試験は期末試験が主ですが、それ以外にも小テストやレポートを課す予定です。4回以上欠席した場合は不合格とします（4回も含む）。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修者は欠席しないようにして下さい。						
教科書	『新共同訳聖書 旧約聖書続編つき』、日本聖書協会、ISBN978-4820212058						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教の基礎知識						
授業の概要	神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになるため、本講義ではキリスト教の基礎知識を提供します。旧約聖書と新約聖書の概要（名称と特徴）、イエス・キリストの生涯と思想、キリスト教の歴史の概略（世界史に与えたキリスト教の影響、特に民主主義や資本主義の成り立ちとの関連性）などを説明していきます。また、キリスト教思想のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。						
到達目標	●神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになること。 ●キリスト教の基本的特徴を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約聖書の名称と特徴を覚えること。 ●キリスト教史の概略を理解すること。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:現代社会とキリスト教 第3回:旧約聖書ダイジェスト (1) 天地創造の神話 第4回:旧約聖書ダイジェスト (2) イスラエル民族の興亡 第5回:旧約聖書ダイジェスト (3) 救世主の待望 第6回:新約聖書ダイジェスト (1) 新約聖書成立の謎 第7回:新約聖書ダイジェスト (2) イエス・キリストの生涯 第8回:新約聖書ダイジェスト (3) イエス・キリストの思想 第9回:キリスト教史ダイジェスト (1) 古代ローマ帝国とキリスト教 第10回:キリスト教史ダイジェスト (2) 中世における教皇権の伸長と衰退 第11回:キリスト教史ダイジェスト (3) ローマ教皇列伝 第12回:キリスト教史ダイジェスト (4) 宗教改革とヨーロッパ近代 第13回:キリスト教史ダイジェスト (5) イギリス宗教改革とデモクラティズム 第14回:キリスト教史ダイジェスト (6) 日本のキリスト教と武士道 第15回:まとめと試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	準備学習：授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。 授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配られたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30% 試験は期末試験が主ですが、それ以外にも小テストやレポートを課す予定です。4回以上欠席した場合は不合格とします（4回も含む）。また、初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修者は欠席しないようにして下さい。						
教科書	『新共同訳聖書 旧約聖書続編つき』、日本聖書協会、ISBN978-4820212058						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門 キリスト教の文化、思想が私たちの生活にも大きく影響していることを知る。						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 キリスト教の思想は西洋文化の土台となっているので、それを学ぶことによって国際社会で生きるための確かな知恵と知識を習得できます。						
到達目標	1. キリスト教について、基本的なことを自分の言葉で説明できるようになること。 2. 旧約・新約聖書の概要を知り、主要な文書の名称と特徴を覚えること。 3. イエス・キリストの生涯と言葉、その後世への影響について理解すること。						
授業計画	第1回「キリスト教の基本思想」クリスチャンは何を信じているのか？ 第2回「天地創造」世界は神が創った？ビッグバンで始まった？ 第3回「アダムとエバ」最初の男と女、最初の結婚、そして最初の罪・・・。 第4回「カインとアベル」最初の兄弟、最初のライバル、そして最初の殺人・・・。 第5回「ノアの箱舟」墮落した人間は滅ぼされる？ 第6回「バベルの塔」もし世界の言語が一つだったら・・・。 第7回「アブラハムとイサク」もし自分の息子を殺せと言われたら・・・。 第8回「イスラエル民族とユダヤ人」世界史を動かしている主役は誰だ？ 第9回「イエスの誕生」イエスは神か人か？ 第10回「聖母マリア」マリアの処女降誕なんて、ありえない？ 第11回「イエスの癒し」イエスが病人を治したのは医術か奇跡か？ 第12回「十字架」この悲惨な刑罰は本当に必要だったのか？ 第13回「復活」死んだ人はどこに行くのか？ 第14回「キリスト教と日本文化」私たちは知らないうちにキリスト教の影響を受けている？ 第15回「まとめと期末試験」						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと。 旧約聖書の「創世記」と新約聖書の「ルカによる福音書」を各自で通読すること。						
授業方法	講義形式を基本としますが、毎回簡単なレポートを書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	授業内レポート・期末試験：70％、平常点：30％						
教科書	『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約統編付き）日本聖書協会 ※すでに聖書を持っている学生は、初回の授業で講師に相談して下さい。						
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解すること。 ●聖書に含まれるクリスマス物語の特徴と意味を理解すること。 ●福音書を通読すると共に、重要な聖句を覚えること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 映像から見るイエス・キリスト～受難 第4回 映像から見るイエス・キリスト～十字架と復活 第5回 イエスの世界（1）～地理と歴史 第6回 イエスの世界（2）～ユダヤ人の宗教 第7回 聖書概観（1）～旧約聖書 第8回 聖書概観（2）～新約聖書 第9回 イエスの誕生物語（1）～福音書とイエス誕生物語 第10回 イエスの誕生物語（2）～誕生物語の意味 第11回 イエスの宣教と教え（1）～公生涯と「山上の説教」 第12回 イエスの宣教と教え（2）～「隣人を愛しなさい」 第13回 イエスの宣教と教え（3）～イエスのたとえ話 第14回 最大の神秘～十字架と復活 第15回 期末試験とまとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	●毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）。 ●松蔭manabaに公開する配付資料の指示に従って毎回予習をすること。 ●授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。 ●新約聖書中の4つの福音書を通読（レポートを書いてももらいます）。 ●聖書に含まれる文書の名称を暗記すること（試験をします）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験と平常点によって評価します（原則として試験70%、平常点30%）。 試験は期末試験が主ですが、その他に復習テストやレポートを課することもあります。平常点は授業への参加度や受講態度によって評価します。						
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約続編付き） 日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 ●配付資料を用いて授業をします。配付資料は前もって松蔭manabaにアップするので、各自印刷して授業に持参すること。						
参考書	参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解すること。 ●聖書に含まれるクリスマス物語の特徴と意味を理解すること。 ●福音書を通読すると共に、重要な聖句を覚えること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 映像から見るイエス・キリスト～受難 第4回 映像から見るイエス・キリスト～十字架と復活 第5回 イエスの世界（1）～地理と歴史 第6回 イエスの世界（2）～ユダヤ人の宗教 第7回 聖書概観（1）～旧約聖書 第8回 聖書概観（2）～新約聖書 第9回 イエスの誕生物語（1）～福音書とイエス誕生物語 第10回 イエスの誕生物語（2）～誕生物語の意味 第11回 イエスの宣教と教え（1）～公生涯と「山上の説教」 第12回 イエスの宣教と教え（2）～「隣人を愛しなさい」 第13回 イエスの宣教と教え（3）～イエスのたとえ話 第14回 最大の神秘～十字架と復活 第15回 期末試験とまとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	●毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）。 ●松蔭manabaに公開する配付資料の指示に従って毎回予習をすること。 ●授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。 ●新約聖書中の4つの福音書を通読（レポートを書いてもらいます）。 ●聖書に含まれる文書の名称を暗記すること（試験をします）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験と平常点によって評価します（原則として試験70%、平常点30%）。 試験は期末試験が主ですが、その他に復習テストやレポートを課することもあります。平常点は授業への参加度や受講態度によって評価します。						
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約続編付き） 日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 ●配付資料を用いて授業をします。配付資料は前もって松蔭manabaにアップするので、各自印刷して授業に持参すること。						
参考書	参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解すること。 ●聖書に含まれるクリスマス物語の特徴と意味を理解すること。 ●福音書を通読すると共に、重要な聖句を覚えること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 映像から見るイエス・キリスト～受難 第4回 映像から見るイエス・キリスト～十字架と復活 第5回 イエスの世界（1）～地理と歴史 第6回 イエスの世界（2）～ユダヤ人の宗教 第7回 聖書概観（1）～旧約聖書 第8回 聖書概観（2）～新約聖書 第9回 イエスの誕生物語（1）～福音書とイエス誕生物語 第10回 イエスの誕生物語（2）～誕生物語の意味 第11回 イエスの宣教と教え（1）～公生涯と「山上の説教」 第12回 イエスの宣教と教え（2）～「隣人を愛しなさい」 第13回 イエスの宣教と教え（3）～イエスのたとえ話 第14回 最大の神秘～十字架と復活 第15回 期末試験とまとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	●毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）。 ●松蔭manabaに公開する配付資料の指示に従って毎回予習をすること。 ●授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。 ●新約聖書中の4つの福音書を通読（レポートを書いてもらいます）。 ●聖書に含まれる文書の名称を暗記すること（試験をします）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験と平常点によって評価します（原則として試験70%、平常点30%）。 試験は期末試験が主ですが、その他に復習テストやレポートを課することもあります。平常点は授業への参加度や受講態度によって評価します。						
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約続編付き）日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 ●配付資料を用いて授業をします。配付資料は前もって松蔭manabaにアップするので、各自印刷して授業に持参すること。						
参考書	参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解すること。 ●聖書に含まれるクリスマス物語の特徴と意味を理解すること。 ●福音書を通読すると共に、重要な聖句を覚えること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教とは何か 第3回 映像から見るイエス・キリスト～受難 第4回 映像から見るイエス・キリスト～十字架と復活 第5回 イエスの世界（1）～地理と歴史 第6回 イエスの世界（2）～ユダヤ人の宗教 第7回 聖書概観（1）～旧約聖書 第8回 聖書概観（2）～新約聖書 第9回 イエスの誕生物語（1）～福音書とイエス誕生物語 第10回 イエスの誕生物語（2）～誕生物語の意味 第11回 イエスの宣教と教え（1）～公生涯と「山上の説教」 第12回 イエスの宣教と教え（2）～「隣人を愛しなさい」 第13回 イエスの宣教と教え（3）～イエスのたとえ話 第14回 最大の神秘～十字架と復活 第15回 期末試験とまとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	●毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくこと（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）。 ●松蔭manabaに公開する配付資料の指示に従って毎回予習をすること。 ●授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。 ●新約聖書中の4つの福音書を通読（レポートを書いてもらいます）。 ●聖書に含まれる文書の名称を暗記すること（試験をします）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験と平常点によって評価します（原則として試験70%、平常点30%）。 試験は期末試験が主ですが、その他に復習テストやレポートを課することもあります。平常点は授業への参加度や受講態度によって評価します。						
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約続編付き） 日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 ●配付資料を用いて授業をします。配付資料は前もって松蔭manabaにアップするので、各自印刷して授業に持参すること。						
参考書	参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の歴史Ⅰ						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	英国キリスト教史：イングランドとスコットランドのキリスト教						
授業の概要	本講座ではキリスト教の歴史を学ぶ。キリスト教は古代のパレスチナにユダヤ教を母胎として生まれながら、はやくも1世紀にはその民族的な枠を脱し、その後二千年の時をかけて数多の文化や言語の壁を越えて世界中に広まった普遍宗教である。その過程で、各地の文化や社会を造りかえると共に、自らも大きな変貌を遂げていった。こうして、今日のキリスト教は極めて多様性に富む宗教となっている。キリスト教のこのようなクロスカルチャルな歴史的発展のプロセスを様々な視点から考察していくのが、本講座の課題である。 ここでは英国のキリスト教を取り上げ、古代から宗教改革期までのその歴史的歩みを学んでいく。英国は多民族国家であるが、特にイングランドとスコットランドの教会に着目し、その歴史を相互に対比させながら考察する。それにより、この2つの地域に何故異なるタイプのキリスト教（アングリカンと長老教会）が成立するに至ったかを考える。						
到達目標	●英国の民族的多様性を説明することができる。 ●英国キリスト教史の概略を説明することができる。 ●イングランドとスコットランドのキリスト教の特徴と違いを説明することができる。 ●キリスト教の内的多様性とその由来を複眼的に考えることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教と宣教 第3回 ローマ帝国のキリスト教とブリタンニア 第4回 英国概観：イングランドとスコットランド 第5回 ケルト人とキリスト教 第6回 アウグスティヌス宣教団とローマ系キリスト教の再来 第7回 ホイットビー会議とローマ系キリスト教の勝利 第8回 中世英国のキリスト教 第9回 宗教改革の暁の星：ジョン・ウィクリフ 第10回 宗教改革概観 第11回 イングランド宗教改革（1）：イングランド教会の独立 第12回 イングランド宗教改革（2）：アングリカニズムの確立 第13回 ジョン・ノックスとスコットランド宗教改革 第14回 スコットランド長老主義の確立と主教派教会（聖公会） 第15回 その後の英国キリスト教 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	復習をしっかりと行うこと。その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにしておくことが望ましい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験やレポートなどの課題および平常点により評価します（課題70%、平常点30%の予定）。レポートや試験は複数回行います。平常点は授業への参加度や受講態度などによって評価します。						
教科書	特にありません。教師の準備する配付資料によって授業を行います。						
参考書	『ベアダ 英国民教会史』（高橋博訳、講談社学術文庫） その他、授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の歴史Ⅱ						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	宗教国家アメリカの形成と発展						
授業の概要	本講義では、キリスト教史の観点から、アメリカの歴史（建国事情から現代まで）と文化を読み解きます。ビル・グリム・ファーザーズ、大覚醒、マニフェスト・ディステニーといった事例から、アメリカ建国におけるキリスト教の影響について考察するとともに、アメリカのデモクラシーの本質にも迫ります。また、アメリカの時事問題（トランプ・ショック）についても言及し、国際的な視野と展望を広げ、受講生に読解の手がかりを与えます。						
到達目標	●キリスト教の観点から、アメリカの歴史と本質を学ぶこと。 ●講義を通してアメリカの特徴を知り、日米関係の在り方を考察できるようになること。						
授業計画	第1回：オリエンテーション サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』の予言 第2回：アメリカ・キリスト教史（1）宗教国家アメリカの胎動 第3回：アメリカ・キリスト教史（2）ビル・グリム・ファーザーズ 第4回：アメリカ・キリスト教史（3）大覚醒 第5回：アメリカ・キリスト教史（4）マニフェスト・ディステニー 第6回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（1）文化と宗教 第7回：アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論（2）キリスト教とデモクラシー 第8回：アメリカの選民思想 第9回：アメリカのキリスト教原理主義（1）モンキー・トライアル 第10回：アメリカのキリスト教原理主義（2）妊娠中絶・同性愛の問題 第11回：大統領とキリスト教（1）政策と宗教 第12回：大統領とキリスト教（2）選挙と宗教 第13回：アメリカの国家戦略とイスラエル・ロビー 第14回：パトリック・ブキャナン『超大国の自殺』のインパクト 第15回：まとめと試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配布されたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	宮本 憲・藤井 尚人						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教礼拝入門～その実際と歴史～						
授業の概要	本講座の目的はキリスト教会の中心的営みである「礼拝」に対する理解を深めることにある。礼拝行為の自覚的・批判的考察が目的であるため、礼拝に関する実際の経験が前提となる。 (オムニバス方式／全15回) (宮本・藤井／3回) (共同) 初回授業で本講座の概要を説明する。またチャペルでの2度の授業では聖歌を共に歌い、礼拝を実際に体験してディスカッションを行う。 (藤井／6回) 本学と歴史的に関係の深い聖公会の礼拝を例として取り上げ、キリスト教礼拝の実際とその意味を考察する。聖公会の祈祷書、教会暦、聖餐式などについて順次学んでいく。 (宮本／6回) 導入部分で祈りと礼拝に関する全般的な概説を行う。また、学期の後半部で歴史的視点からキリスト教礼拝を考察して、 sacrament や多様な礼拝形態、礼拝を構成する諸要素に関する理解を深める。						
到達目標	●祈るとはどういうことか理解する。 ●キリスト教会の礼拝への参与に必要な基礎知識を身につける。 ●キリスト教礼拝の歴史の概略と礼拝形式の多様性を理解する。 ●教会音楽に親しむ。						
授業計画	A. イントロダクション 第1週 オリエンテーション(宮本・藤井) 第2週 祈りと礼拝(宮本) B. 聖公会における礼拝(藤井) 第3週 教会の1年～教会暦～ 第4週 「祈祷書」とは何か～イングランド国教会の歴史～ 第5週 キリスト教の結婚式～ロイヤル・ウェディング～ 第6週 世界の若者が集まるテゼ共同体～歌と祈り～ 第7週 知っておきたい聖歌～日本聖公会聖歌集より～ 第8週 ミサ(聖餐式)という礼拝 C. 礼拝と音楽 第9週 聖歌を歌おう(藤井・宮本、チャペルにて) 第10週 ミサ曲と礼拝～モーツァルト「戴冠ミサ曲」(宮本) D. 歴史からみた礼拝(宮本) 第11週 ユダヤ教における礼拝 第12週 新約時代～洗礼、主の晩餐、主の祈り 第13週 古代から中世へ～典礼の形成と信仰告白 第14週 宗教改革以降～礼拝の多様化と典礼運動 E. まとめ 第15週 礼拝を体験する(藤井・宮本、チャペルにて) ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習(準備学習の内容)	●フィールドワーク (1) キリスト教会の聖日礼拝(日曜礼拝)に最低2回は出席すること。 (2) 本学チャペルでの「ヌーンサービス」に最低2回は出席すること。 ●毎回復習を行って疑問点を整理し、次の授業で教師に質問する習慣をつけること。 ●「祈祷書」「聖歌集」の関連項目を読んでおくこと。 ●松蔭manabaに配付資料が前もって公開される場合は、授業に先だって眼を通して予習しておくこと。						
授業方法	基本的に講義形式ですが、適宜演習形式を加える場合もあります。						

評価基準と 評価方法	●課題点及び平常点によって評価します（課題点70%、平常点30%の予定）。 ●課題点は、2名の担当者によって課される試験ないしレポート、フィールドワーク（教会及びヌーンサービス出席）のレポートによって評価します。 ●平常点は、授業への参加度（質疑応答、ディスカッションなど）や受講態度などによって評価します。 ●フィールドワークについて、聖日礼拝やヌーンサービスに2回を越えて参加した場合は、最終評価において加点します。
教科書	●教科書は特にありません。配付資料によって授業を行います。 ●前もって指示された授業では聖書を持ってくること。
参考書	旧新約聖書 ウィリアム・ウィリモン『言葉と水とワインとパンーキリスト教礼拝史入門』 （新教出版社） エドワード・フォーリー『時代から時代へ』（聖公会出版） 「日本聖公会 祈祷書」（1990年） 「日本聖公会 聖歌集」（2006年）

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	現代のキリスト教						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教霊性とヘンリ・ナウエン						
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また、欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講座では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。 今年度は、オランダ出身のローマ・カトリックの霊性思想家ヘンリ・ナウエン（1932年～1996年）の著書を通して現代のキリスト教霊性思想に触れつつ、今日の世俗社会を生きる私たちにとってのキリスト教の使信の意味を考えていく。 なお、この授業は、履修者による発表を中心とした演習形式で行っていく。						
到達目標	●ナウエンの著作を少なくとも2冊読み、その内容を説明できるようになる。 ●キリスト教霊性とは何か、その基本的特徴を説明できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 世俗化とキリスト教霊性の復興 第3回 キリスト教霊性とは何か 第4回 ヘンリ・ナウエンの生涯と業績 第5回 『アダムー神の愛する子』について 第6回 発表（1）：『アダム』第1章～第3章 第7回 発表（2）：『アダム』第4章～第6章 第8回 発表（3）：『アダム』第7章～結び 第9回 映像で見るイエスの生涯：映画「サン・オブ・ゴッド」から～宣教活動 第10回 映像で見るイエスの生涯：映画「サン・オブ・ゴッド」から～受難と復活 第11回 発表（4）：『いま、ここに生きる』第1章～第3章 第12回 発表（5）：『いま、ここに生きる』第4章～第6章 第13回 発表（6）：『いま、ここに生きる』第7章～第9章 第14回 発表（7）：『いま、ここに生きる』第10章～第11章 第15回 まとめ 注意：以上は予定です。履修者数・進行状況等により変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的に演習形式で授業を行いますので、履修者は全員ナウエンの著作を読み、発表を行うこととなります。あらかじめ発表をレポートにまとめ、担当当日に履修者全員に配布できるよう準備してください。						
授業方法	演習形式。履修者による発表とディスカッションを基本とします。 また、必要に応じて講義も行います。						
評価基準と評価方法	課題点と平常点によって評価します（課題点70%、平常点30%の予定）。 課題点は授業中の発表と提出物、期末レポートなどによって評価します。 平常点は質疑応答やディスカッションなど授業への参加度および受講態度によって評価します。						
教科書	ヘンリ・ナウエン著・宮本憲訳『アダムー神の愛する子』改訂新版（聖公会出版）ISBN978-4-88274-237-1 ＊担当箇所の発表の他、全体を通読してレポートを書いてもらいますので、必ず購入して下さい。						
参考書	旧新約聖書 ヘンリ・ナウエン『いま、ここに生きる』（あめんどう） A. E. マクグラス著『キリスト教の霊性』（教文館） ミッシェル・フォード『傷ついた預言者ーヘンリ・ナウエンの肖像』（聖公会出版） その他、授業中に紹介します。 なお、ナウエンの著書はキリスト教センターに配架してあります。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学びます。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもあります。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことからキリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考えます。						
到達目標	キリスト教の歴史と聖公会について基本的な知識を得た上で、神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できるようになる。 キリスト教の活動、社会と文化への影響を学び、その愛の精神について理解する。						
授業計画	第1回 神戸松蔭の歴史とキリスト教ーキリスト教と日本 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教ー聖公会とは 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教ー松蔭の歴史 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教ー松蔭とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教ー資料から見る歴史 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教ー神戸とキリスト教 第7回 キリスト教と文化ーキリスト教と音楽 第8回 キリスト教と文化ー礼拝と音楽 第9回 キリスト教と文化ーキリスト教と美術 第10回 いのちを考える 第11回 いのちを考えるー社会的実践 第12回 なぜ人を助けるのかーマザー・テレサ 第13回 なぜ人を助けるのかーマザー・テレサの活動の広がり 第14回 なぜ人を助けるのかーキリスト教の愛の精神 第15回 まとめと試験 ゲスト・スピーカーを招いた授業も行います。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を復習し、試験に向けて理解を確実なものにしておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題提出と出席状況等による平常点60%、期末試験40%。 基本的には毎回の授業で感想など小課題の提出あり。最後に、それまでの授業全体を振り返った試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない。配布プリントによって授業を行う。						
参考書							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学びます。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもあります。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことからキリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考えます。						
到達目標	キリスト教の歴史と聖公会について基本的な知識を得た上で、神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できるようになる。 キリスト教の活動、社会と文化への影響を学び、その愛の精神について理解する。						
授業計画	第1回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教と日本 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭の歴史 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－資料から見る歴史 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸とキリスト教 第7回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第8回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第9回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第10回 いのちを考える 第11回 いのちを考える－社会的実践 第12回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第14回 なぜ人を助けるのか－キリスト教の愛の精神 第15回 まとめと試験 ゲスト・スピーカーを招いた授業も行います。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を復習し、試験に向けて理解を確実なものにしておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題提出と出席状況等による平常点60%、期末試験40%。 基本的には毎回の授業で感想など小課題の提出あり。最後に、それまでの授業全体を振り返った試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない。配布プリントによって授業を行う。						
参考書							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学びます。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもあります。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことからキリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考えます。						
到達目標	キリスト教の歴史と聖公会について基本的な知識を得た上で、神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できるようになる。 キリスト教の活動、社会と文化への影響を学び、その愛の精神について理解する。						
授業計画	第1回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教と日本 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭の歴史 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－資料から見る歴史 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸とキリスト教 第7回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第8回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第9回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第10回 いのちを考える 第11回 いのちを考える－社会的実践 第12回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第14回 なぜ人を助けるのか－キリスト教の愛の精神 第15回 まとめと試験 ゲスト・スピーカーを招いた授業も行います。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を復習し、試験に向けて理解を確実なものにしておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題提出と出席状況等による平常点60%、期末試験40%。 基本的には毎回の授業で感想など小課題の提出あり。最後に、それまでの授業全体を振り返った試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない。配布プリントによって授業を行う。						
参考書							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学びます。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもあります。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことからキリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考えます。						
到達目標	キリスト教の歴史と聖公会について基本的な知識を得た上で、神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できるようになる。 キリスト教の活動、社会と文化への影響を学び、その愛の精神について理解する。						
授業計画	第1回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教と日本 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭の歴史 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－資料から見る歴史 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸とキリスト教 第7回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第8回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第9回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第10回 いのちを考える 第11回 いのちを考える－社会的実践 第12回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第14回 なぜ人を助けるのか－キリスト教の愛の精神 第15回 まとめと試験 ゲスト・スピーカーを招いた授業も行います。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を復習し、試験に向けて理解を確実なものにしておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題提出と出席状況等による平常点60%、期末試験40%。 基本的には毎回の授業で感想など小課題の提出あり。最後に、それまでの授業全体を振り返った試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない。配布プリントによって授業を行う。						
参考書							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：宮本 憲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学びます。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもあります。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことからキリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考えます。						
到達目標	キリスト教の歴史と聖公会について基本的な知識を得た上で、神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できるようになる。 キリスト教の活動、社会と文化への影響を学び、その愛の精神について理解する。						
授業計画	第1回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教と日本 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭の歴史 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－松蔭とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－資料から見る歴史 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸とキリスト教 第7回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第8回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第9回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第10回 いのちを考える 第11回 いのちを考える－社会的実践 第12回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第14回 なぜ人を助けるのか－キリスト教の愛の精神 第15回 まとめと試験 ゲスト・スピーカーを招いた授業も行います。						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を復習し、試験に向けて理解を確実なものにしておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題提出と出席状況等による平常点60%、期末試験40%。 基本的には毎回の授業で感想など小課題の提出あり。最後に、それまでの授業全体を振り返った試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない。配布プリントによって授業を行う。						
参考書							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	新約聖書を学ぶ						
担当教員	木原 桂二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	新約聖書の思想						
授業の概要	「新約聖書」は、27冊の書物を取りまとめたものです。どの書物も、イエスによって証しされた「福音」が共通の基盤になっていますが、各書物の著者は、様々な地域や民族の出身者であり、それぞれが独自の思想を持っています。また、私たちとは異なる文化が背景にあるため、その内容を理解するためには乗り越えるべき高いハードルがあります。そこで本授業では、新約聖書を少しでも身近に感じ、その思想を生かすことができるように聖書本文とその背景についての学びを深めていきます。						
到達目標	(1) 新約聖書の四福音書それぞれの特徴の背景となっている歴史と成立の事情を理解できるようにする。 (2) イエスとパウロの思想の特徴を理解し、説明できるようにする。 (3) 新約聖書の思想を踏まえて、現代社会の諸問題について自分の意見を持てるようにする。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポートについての説明 (入門) 新約聖書とは何か？—ユダヤ教からキリスト教へ 第2回 イエスの言行録①—共観福音書(マタイ・マルコ・ルカ)序説 第3回 イエスの言行録②—共観福音書(マタイ・マルコ)のイエス像 第4回 イエスの言行録③—共観福音書(ルカ)のイエス像／ヨハネ福音書のイエス像 第5回 使徒の時代—イエス以後の思想と信仰 第6回 新約聖書の思想イエス編①—エゴイズム 第7回 新約聖書の思想イエス編②—財産所有 第8回 新約聖書の思想イエス編③—隣人愛 第9回 新約聖書の思想イエス編④—暴力と平和 第10回 新約聖書の思想イエス編⑤—差別と和解 第11回 新約聖書の思想イエス編⑥—罪と赦し 第12回 新約聖書の思想イエス編⑦—子どもの人権 第13回 新約聖書の思想パウロ編①—人間の限界 第14回 新約聖書の思想パウロ編②—共同体(共に生きる集り) 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	多くの学生は新約聖書に触れる機会が少なく、授業で取り扱える範囲も限られます。それゆえ、普段から聖書本文(日本語訳)を読み、疑問に思うことを書き留めるようにして下さい。それを教師に質問して頂ければ、授業に関連づける形で応答したいと考えています(質問内容は、下記「評価方法」に記載されている授業内小レポートに記述して頂きます)。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	①レポート評価 70% ②授業内小レポートの評価(不定期に実施) 30% ③私語や授業態度も減点の対象になるので注意してください。						
教科書	1. 『聖書』 ※翻訳は問いません。ご自分の聖書をお持ち下さい。 2. 毎回授業時にプリント(レジュメ)を配布し、そのレジュメに基づいて授業を進めます。						
参考書	参考書は、必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン実習A／音楽実技IIA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう ～ コラールとグレゴリオ聖歌から～						
授業の概要	チャペルの大オルガンを用いて、パイプオルガン演奏の基礎的な実習を行う。レパートリーとしては、コラールを題材に書かれたドイツバロックの平易な小品、さらにグレゴリオ聖歌を題材に書かれたフランス古典の小品を取り上げる。曲に取り組む中で、パイプオルガンのタッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法といった基礎的な奏法を学ぶ。						
到達目標	1. パイプオルガンを演奏するための基礎的なテクニックを身につける。 2. 聖歌と教会歴について、楽曲を通して体感する。 3. コラールに基づく小品（ドイツバロック）を演奏できるようになる。 4. グレゴリオ聖歌に基づく小品（フランス古典）を演奏できるようになる。 5. 松蔭のオルガンについて熟知し、様々なパイプの効果的な使い方を知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 オルガン奏法の基礎①（タッチ・楽器へのアプローチの確認） 第3回 オルガン奏法の基礎②（レジストレーション） 第4回 オルガン奏法の基礎③（ペダル） 第5回 楽曲への取り組み①（待降節のコラール） 第6回 楽曲への取り組み②（クリスマスのコラール） 第7回 楽曲への取り組み③（受難のコラール） 第8回 楽曲への取り組み④（イースターのコラール） 第9回 楽曲への取り組み⑤（ペンテコステのコラール） ＊主に「パイプオルガン入門B」において紹介したコラールに基づく小品を中心に、教会歴に沿ったオルガン作品の中から個人のレベルにあった曲を数曲選び、より完成した演奏に向けて取り組む。 第10回 楽曲への取り組み⑥（ブランジュ） 第11回 楽曲への取り組み⑦（グランジュ） 第12回 楽曲への取り組み⑧（コルネ） ＊グレゴリオ聖歌に基づく小品を取り上げ、松蔭のフランス様式のオルガンに相応しいレジストレーションを知る。 第13回 クラス内発表会での演奏の準備①（レジストレーションの工夫） 第14回 クラス内発表会での演奏の準備②（音を遠くで客観的に捉える訓練） 第15回 クラス内発表会とその講評 ＊学期中に取り組んだ楽曲の中から、コラールに基づく小品とグレゴリオ聖歌に基づく小品を1曲ずつ選び、演奏する。レジストレーションも各自の責任でできるように準備する。終了後は、お互いの演奏にコメントしあう時間を持ち、他の人の演奏を客観的に聴き、批評することを経験する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	学内のオルガンでの個人練習						
授業方法	グループレッスン形式による実技						
評価基準と評価方法	平常点60%、実技試験（クラス内発表会）40%						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては授業中に紹介する。						
参考書	・日本聖公会 聖歌集 ・ルター派 教会讃美歌 ・「クラヴィス」大塚直哉編						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン実習B／音楽実技IIB						
担当教員	伊藤 純子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを美しく演奏する						
授業の概要	「パイプオルガンでコラール変奏曲を演奏する」 パイプオルガン入門A B、パイプオルガン実技Aでの学びの集大成として、大オルガンでコラール変奏曲を演奏する。 その演奏に必要な要素として、大オルガンの音の鳴らし方の工夫、音の選び方について、及び、コラールについての学びと、コラールの歌唱も行う。						
到達目標	①四声体聖歌の演奏を、メロディーを歌うように演奏できるようになる。 ②四声体聖歌の演奏を、各声部を耳で追いながら、美しい音で演奏できるようになる。 ③コラール変奏曲の基になっている聖歌について知る。 ④コラール変奏曲の曲の仕組みを知る。 ⑤コラール変奏曲演奏のための、大オルガンの音の選び方、音の鳴らし方を習得する。 ⑥コラール変奏曲を、大オルガンで美しく演奏できるようになる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：二声での聖歌演奏の復習（身体の使い方） 第3回：二声での聖歌演奏の復習（美しい音の鳴らし方） 第4回：四声での聖歌演奏方法の探求（身体の使い方） 第5回：四声での聖歌演奏方法の探求（美しい音の鳴らし方） 第6回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌についての学び 第7回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌の演奏 第8回：コラール変奏曲の演奏への取り掛かり 聖歌歌唱 第9回：コラール変奏曲の曲の構成について 第10回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の選定 第11回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の工夫 第12回：コラール変奏曲を題材に、美しい音の鳴らし方の工夫 第13回：コラール変奏曲演奏の完成 第14回：試験準備 第15回：試験 ＜実技試験＞大オルガンで聖歌を四声で伴奏（全員で歌唱）、コラール変奏曲の演奏 ＜筆記試験＞講義内容について						
授業外における学習（準備学習の内容）	大オルガンの個人練習						
授業方法	解説、実習						
評価基準と評価方法	平常点60%、レポート20%、試験20%						
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）						
参考書	日本聖公会 聖歌集						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン入門A						
担当教員	伊藤 純子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンへのアプローチ ～楽器、礼拝、音楽の視点から～						
授業の概要	「パイプオルガンへ多角的に近づく」 ・パイプオルガンという楽器について、ルーツと発音の仕組み、歴史や国ごとの違いを学ぶ ・礼拝について、また礼拝と音楽との関係性について、概略を学ぶ ・オルガンで美しい音を鳴らす工夫と、実際に聖歌を歌い伴奏する体験をする * 以上について、知識だけではなく、視覚的・聴覚的・身体的体験からの習得の機会とする						
到達目標	①パイプオルガンという楽器について知る 1、しくみ 2、オルガンの歴史 3、オルガン音楽のレパートリー ②礼拝について知る 1、礼拝と歌・オルガンとの関係 2、教会暦とその音楽 ③上記①②により「パイプオルガンは息の楽器であり、礼拝と共に歩んできた」ことを習得した上で、実際に聖歌を歌い、美しい伴奏（ソプラノ声部とバス声部の二声）を行う ④上記①～③の習得は、オルガン入門Bにおける四声体聖歌とコラール演奏のための導入となる						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：【楽器1】「ルーツと仕組み」パイプオルガンの三大要素について、楽器内部の見学 第3回：【楽器2】「笛について」様々な笛の観察と、それらの特色や違いについて 第4回：【楽器3】「オルガンのスタイル」国ごとのオルガンの特色や歴史と、そのスタイル 第5回：【楽器4】「音楽史」オルガン音楽のレパートリーの、音楽史上での位置づけについて 第6回：【礼拝1】「礼拝とは」ミサの起源、様々な礼拝について 第7回：【礼拝2】「礼拝における音楽」古代からグレゴリオ聖歌、現代の聖歌集まで 第8回：【礼拝3】「教会暦」クリスマス、受難節、イースターについてとその音楽 第9回：【礼拝4】「コラール」ルターの宗教改革からバッハのカンタータまで 第10回：【演奏1】「美しい音を鳴らす」オルガンのタンギングやタッチの工夫 第11回：【演奏2】「うた」聖歌の歌唱における、身体の使い方の体験 第12回：【演奏3】「指揮」聖歌の歌唱を指揮する体験 第13回：【演奏4】「二声での演奏1」10, 11, 12回の体験をもとにポジティブオルガンで奏楽 第14回：【演奏5】「二声での演奏2」各自の練習の成果をもとに大オルガンで奏楽 第15回：試験 <実技試験>大オルガンで聖歌を二声で伴奏（全員で歌唱） <筆記試験>講義内容について						
授業外における学習（準備学習の内容）	オルガン練習室での個人練習（第10回授業以降）						
授業方法	講義形式の解説、音楽や映像の鑑賞、学生による実習						
評価基準と評価方法	平常点60%、レポート20%、試験20% レポート提出2回、試験						
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）						

参考書	金澤正剛 著「キリスト教と音楽」＜音楽之友社＞ 大塚直哉 編「クラヴィス～むかしの鍵盤楽器を弾いてみよう～」現代ギター社 日本聖公会 聖歌集
-----	--

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン入門B						
担当教員	上野 静江						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう ～ 聖歌や聖歌に基づく小品を中心に ～						
授業の概要	「パイプオルガン入門A」で得た基本をもとに、聖歌や聖歌に基づく平易なオルガン作品の演奏を通して、基礎的なオルガン奏法を身につける。 ルター派コラールを中心に、教会歴に沿った、グレゴリオ聖歌から現代までの代表的な聖歌に親しみ、その成立の背景、さらにその聖歌をもとに書かれたオルガン作品を学ぶ。						
到達目標	1. 松蔭のオルガンについて、その特徴・概要を知る。 2. 聖歌集について、その内容や使い方を知る。 3. 四声体の聖歌を、歌詞や曲の意味を体現し、美しく歌えるように伴奏する。 4. 聖歌に基づいた、主にドイツバロック時代のオルガン作品を演奏する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・選曲・松蔭のオルガンについて① 第2回 聖歌集について・松蔭のオルガンについて② 第3回 待降節のコラールとそのオルガン作品 第4回 クリスマスのコラールとそのオルガン作品 第5回 受難のコラールとそのオルガン作品 第6回 イースターのコラールとそのオルガン作品 第7回 ペンテコステのコラールとそのオルガン作品 第8回 グレゴリオ聖歌とオルガン作品 第9回 詩編とオルガン作品 第10回 現代の讃美歌 第11回 反復と復習①（タッチ・テクニックを中心に） 第12回 反復と復習②（パイプを歌わせることを中心に） 第13回 クラス内発表会の準備①（レジストレーション選定） 第14回 クラス内発表会の準備②（音を会堂に響かせる耳の作り方・よいテンポ等） 第15回 クラス内発表会（試験を兼ねる）と講評 * 各自 A)とB)を組み合わせて、7分以内のプログラムを組む。 A) 四声体での会衆賛美の伴奏（学期内に取り組んだ聖歌から1曲選び、前奏と任意の1節） B) 学期内に取り組んだ聖歌に基づく作品を仕上げ、相応しいストップで演奏する						
授業外における学習（準備学習の内容）	学内の練習用オルガン等を活用して、納得いくまで練習した上で授業に臨んで下さい。						
授業方法	講義に加えて、チャペルにあるポジティブオルガンと大オルガンを用いて、グループレッスン形式で実技実習を行います。						
評価基準と評価方法	毎回の授業への取り組み50%、レポート10%、期末試験（クラス内発表会）40%						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介。						
参考書	・日本聖公会 聖歌集 ・ルター派 教会讃美歌						